

武庫汽船	第五御影丸	六月三十日	食料金	食料金を十五圓五十錢とし米代は全額會社より支給
藤田商店	第二大安丸	七月一日	機部全員給料低ト	撤回、従前通り支給
町田商會	瑞光丸	七月五日	便所掃除賃不拂	全額三十七圓五十錢を即時支給
昭興海運	大光丸	七月四日	食料金及乗組定員	今後一切の件は團體協約に依る、食料金十六圓十錢より絶対低下せず、乗組は十一名より減員せず、片荷役平均一個につき二錢支給、尙手當として一ヶ月金四十圓支給
相馬船舶部	第二大安丸	七月五日	船内荷役賃	乗組の希望通り改正
攝津商船	神安丸	七月十日	食料支給方法	實 施
國際汽船	あたらんち つく丸	七月二十日	甲部機部各二名、最低賃銀不實施	藤丸を賣却し給料不拂金額一千六百三十三圓六十錢を支給
藤村商店	藤丸	八月十日	給料不拂	各自五圓宛増額
田中汽船	春丸	七月廿九日	航海手當増額要求	貫 徹
日本汽船	陽光丸	八月十一日	缺員貲長補充要求	北緯二十一度より同緯度歸還迄給料の一分五厘の手當支給
成宮汽船	興和丸	八月十日	航海手當増額要求	協定通り四月に遡及して支給
日魯漁業	榛名丸	八月十五日	協定給料支給要求	二名の乗船日たる四月十五日に遡及して支給
高橋商店	泰福丸	八月二十日	火夫長、貲長最低賃銀不實施	一ヶ月十六圓に協定
澤山汽船	第一東洋丸	八月廿六日	食料金	即時實施
小川合名	大正丸	八月二十日	船夫二名、水夫一名、給仕各一名最低賃銀不實施	即時支給
辰馬汽船	宮殿丸	八月廿四日	缺員手當要求	支給

日之出汽船	長久丸	七月十三日	最低賃銀不實施	實 施
清水商店	孟買丸	七月八日	六月分給料不拂	即時支給
東洋汽船	所有船舶全	七月十一日	航海手當復活要求	近海第二區及遠洋第一區は従來の支給額の五割増、遠洋第二區は従來の支給額より平均三割五分強増
清水商會	遠江丸	七月六日	六月分給料不拂	即時支給
山本商店	最勝丸	七月十四日	六月分給料不拂	即時支給
山本商會	春晴丸	七月五日	甲、機各一名減員	甲板部の減員は撤回、機關部は遠洋航海の際増員する事
小野商會	長陽丸	七月十五日	食料金	十六圓五十錢と協定
白洋汽船	天平丸	七月廿八日	食料金増額要求	十九圓五十錢に増額
秋田商會	大進丸	八月十八日	七月分給料未拂	全額支給
報知新聞	第百國際丸	九月九日	傷病手當要求	水夫二名、火夫一名に全額百六十圓支給
清水商會	遠江丸	九月八日	露國商船隊備船中の衛生費	商船隊との協定第七項に準じて支給
大連汽船	泰來丸	九月六日	同 右	同 右
矢吹汽船	晴海丸	九月十四日	ボイラー掃除費	一罐にて三十五圓合計七十圓支給
鍋木汽船	立神丸	九月十七日	食料金低下反對	復 舊
林 汽 船	寶山丸	九月十八日	機關部一名最低賃銀不實施	乗船當時に遡及して支給
三好商會	第二高運丸	九月二十日	水夫長、船夫三名、二等油差一名最低賃銀不實施	實 施